

定秀家住宅

[登録日]平成 29 年 8 月 23 日

美保関町美保関 466 番地外

正面外観



正面外観【漆喰壁・格子】



◆ 建築年代：明治前期

◆ 構造：木造平屋建

■ 概要

この建物は仏谷寺に至る通りの東側にあり、定秀家の祖は源頼朝の家臣である松田十郎藤原貞秀とされており、定秀家は約 800 年続き、美保関の歴史とともに歩んできた家系です。

北国屋という屋号がありますが、北前船が美保関に入津するようになり、北前船商法の発祥地である北国七カ国（越前・加賀・能登・佐渡・越中・越後・出羽）との廻船業の独占権を有したことが由来とされています。また、古東館とも称せられ、後醍醐天皇の隠岐遷幸の際に命名されたものと伝えられています。

地域の有力な廻船問屋であった北国屋の面影を残すとともに、棧瓦や漆喰壁、板壁、格子窓を使用し、出桁といった美保関の町家の特徴をもつ、日本海沿いの海運の拠点で栄えた美保関の歴史を語る上で貴重な建物です。

正面外観【出桁】



位置図

